

夏のオープンラボ

SUMMER OPEN LAB

新しい骨董

NEW ANTIQUE

2018

7.14sat – 9.17mon

広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

開館時間：10時～17時 休館日：月曜日。ただし、7.16(月・祝)、8.6(月)、9.17(月・祝)は開館、7.17(火)、8.7(火)は休館。 会場：地下1階ミュージアムスタジオ

新しい骨董

NEW ANTIQUE

「新しい骨董」は、山下陽光(ファッションブランド「途中でやめる」主宰、1977-)、下道基行(アーティスト、1978-)、影山裕樹(編集者、1982-)の3名による、実験的な活動を行うグループです。街中や、インターネット上に溢れる「新しい骨董」とでもいうべき何かの探索や実践を通して、新しい価値、新しい美を探究しています。
<http://atarashiikotto.com>

本企画では、そんな彼らによる、自由(すぎる)研究が繰り広げられます。

下道基行

1978年、岡山生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。写真や文章を表現手段に、モノ／コトの残り方／消え方や、目の前に広がる風景の在り方に興味を持ち、旅やフィールドワークをベースに、数多くの展示や出版等で表現を続けている。愛知県名古屋市在住。

山下陽光

1977年、長崎生まれ。高円寺の古着屋「素人の乱シランプリ」元店主。「途中でやめる」という名の服を発表するかたわら、戦後原爆ドームの前に出来たアトム書房の調査など、インターネットに転がるユニークな情報を探り、現代に接続する様々な活動を行なっている。福岡県福岡市在住。

影山裕樹

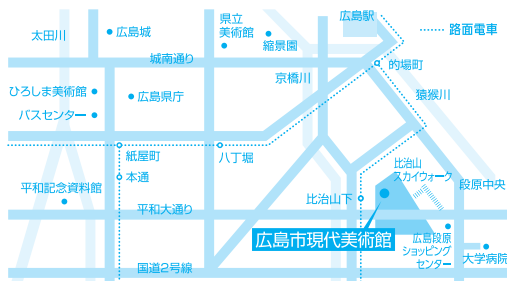
1982年、東京生まれ。雑誌編集部、出版社勤務後フリーに。数々のアート&カルチャー書の出版プロデュース・編集を行う傍ら、近年は各地の芸術祭やアートプロジェクトに編集者として関わっている。著書に「大人が作る秘密基地」など。合同会社千十一編集室代表。東京都豊島区在住。

●表の写真について

飲食店で飲み物をボトルごと購入し、店に置いておくシステム「ボトルキーブ」。通常は、個人やグループが自分たち自身のボトルをキーブし、飲み、なくなればまた、新しいボトルを入れます。また、店によってルールは異なりますが、長期間放置すると処分され、消滅してしまうことが多く、飲み続けないとボトルは維持されません。こうした「ボトルキーブ」という古くから親しまれてきたシステムを、新しい骨董ではわずかに読み替え、多くの人々が飲み物を共有するシステムとして活用してみせました。つまり、誰もが「新しい骨董」という名義でボトルを入れることができ、また、誰もがそのボトルで飲むことができるのです。新しく買ったボトルの情報はSNSなどで公開されるので、どこかで新たなボトルが入るたびに情報が拡散していき、共有する人々の数も増えていきます。この試みは、2016年の夏、埼玉県浦和市で始められ、地域や店舗数を拡大させながら現在も

続けられています。なかには、「新しい骨董」ボトルを注文した際、別の客が既に飲んでおり、それが出会いのきっかけになったという例や、頻繁に新たなボトルが入れられる店では既に100本を軽く超えてしまったという例などが示すように、この試みを始めたメンバーとしての新しい骨董の手を既に離れ、その行為自体が多くの人々によって支えられる営みとなっているのです。それは彼らの試みが、現代の社会において、新しい消費や共有の仕組みを作る、社会実験のようなものであること、そしてこの「ボトルキーブ」がとりわけ成功した事例であることを物語っています。表面の写真は、この「ボトルキーブ」の展開において大きな貢献を果たした人物が、行きつけの飲食店前で撮影し、ツイッターに投稿した際の画像です。すなわち、新しい骨董という運動体の特徴と、現時点での到達点を示す、最も重要なイメージということができます。

●「夏のオープンラボ」は多彩な表現活動について様々な方法による紹介を試み、美術館活動の可能性を探る、当館における実験場としての企画です。



広島市現代美術館

Tel.082-264-1121

732-0815 広島市南区比治山公園1-1

<https://www.hiroshima-moca.jp>



Facebook・Twitterは **Hiroshima MOCA** で検索

[駐車のご案内] 美術館専用の駐車場はありませんので、周辺の駐車場をご利用ください。①比治山公園内(約120台分、無料、利用時間 9:00~19:00) ②広島段原ショッピングセンター駐車場(1階サービスカウンターへ当館の入館証明提示で当日に限り3時間無料)